


第十六回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品

【最優秀賞】（岡山県知事賞）

作品名	アニマの肖像 ^{しょうぞう} （ジャンル：小説）	
作者名	ゆきかわ ゆう（ペンネーム）	
プロフィール	<ul style="list-style-type: none">・平成6（1994）年8月31日生（28歳）・東京都在住・公務員 〈受賞歴〉 なし	
作品の概要		
<p>室町時代、総社の宝福寺に絵の才能に恵まれた一人の少年、後に画聖と謳われる雪舟がいた。和尚は修業より絵を描くことに夢中な少年の描き方ではその才能がつぶれることを恐れ、少年を御堂に閉じ込めて戒める。真っ暗な御堂で、圧倒的な孤独のなか少年は涙で一匹の「ねずみ」を描く。それを見た和尚は、やがて京の寺に送り出す。</p> <p>涙で描かれた御堂の「ねずみ」は意識を持ち、少年を見守る。そして、いつしか御堂に来なくなった少年を待ち続ける。やがて、御堂に住みついたクマネズミから世の中のことを知り、僧たちの話から少年が明に渡り画僧として大成したことを知る。「ねずみ」は少年やクマネズミとの再会を夢見るが、意識は別のものへと変化していく。</p>		
審査員講評		
<p>雪舟のねずみを、御堂からただ彼を見守るだけの形のない存在にし、更には暗闇に響く魂の声によって物語を進めてゆく点が、独自の魅力になっている。現世の象徴となるクマネズミの愛らしさも心に残った。文学的野心を感じさせる作品。</p>		

※年齢は令和4（2022）年12月13日時点